

## 第1回 播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事概要

日 時	平成27年6月29日(月) 14:30~16:30
場 所	播磨町役場 3階 BC会議室
出席者	<p><b>【播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議】</b></p> <p>田中 靖宏 (新島連絡協議会 会長)</p> <p>松井 昭雄 (商工会)</p> <p>大亀 亨 (商店主)</p> <p>川崎 慎吾 (東播磨県民局 副局長) (代理出席)</p> <p>藤谷 淳一 (加古川公共職業安定所 次長)</p> <p>南島 和久 (神戸学院大学 法学部 准教授)</p> <p>大塚 毅彦 (明石工業高等専門学校 建築学科 教授)</p> <p>榎山 春夫 (みなと銀行 本荘支店 支店長)</p> <p>北 幸治 (労働者福祉協議会 会長)</p> <p>門野 隆弘 (神戸新聞 東播支社 支社長)</p> <p>荒谷 ふみ子 (住民代表)</p> <p>諸鹿 良治 (住民代表)</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>清水 ひろ子 (町長)</p> <p>三村 隆史 (副町長)</p> <p>横田 一 (教育長)</p> <p>角田 英明 (理事)</p> <p>森本 貴浩 (理事)</p> <p>福田 宜克 (理事)</p> <p>平郡 利一 (理事)</p> <p>高倉 正剛 (理事)</p> <p>嶋田 暢 (会計管理者)</p> <p>岡本 浩一 (企画グループ 統括)</p> <p>堀江 直美 (企画グループ)</p> <p>濱田 祐輔 (企画グループ)</p>

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 町長あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 会長、副会長の選出  
     会長に南島和久氏、副会長に田中靖宏氏を選出。

## 6 協議事項

### (1) 播磨町人口ビジョン・総合戦略策定について

【資料1】

(事務局より説明)

会長)

今、ご説明があった中で、ご質問等があればお願いします。

委員)

人口の減少対策について、説明を聞いていると子育て世帯を対象にした施策のようにかがえたが、一人暮らしの単身者も積極的に呼び込むことは考えていないのか。

町長)

どのような方が来られても大歓迎だが、播磨町としてはある程度ターゲットを持ちたい。定住して家庭を持ち、子育てをし、地域に溶け込み、生涯を終えていただけたらありがたいと思っている。単身者でもどのような人生設計を描いているかによる。新島企業にも4,000人近くが勤務しているが、その方たちに町の魅力を知ってもらい、定住や子育てを播磨町でもよいと思わせるような政策を打ち出していきたいので、今後皆さんの意見を聴きながら盛り込んでいきたいと思っている。

会長)

P5 (1) 総合戦略の位置付けで人口減少克服・地方創生が目的とありますが、人口減少の克服と地域の活性化では、当面はどちらに重きを置くのですか。

理事)

国の方でも、まち・ひと・しごと創生法で人口減少克服と地方創生の2本柱を掲げて施策を展開しており、町も国が示した4分野で進めていく中で位置付け、またこの会議で意見を頂戴しながらメリハリをつけた戦略を作っていきたい。

会長)

今後の議題ということですね。

町長)

人口減少対策と地方創生は必ずしも一致するものではない。人口の増加はある程度打つ手はある。国の規制、また町でもいくつかの規制を外せば可能にはなる。二つとも連動はするが別の施策であり、いかに融合させていくかになる。最終的には両方とも町の将来に関係するが、施策の形はそれぞれ異なるという認識である。

会長)

あとは播磨町の実際のデータを洗い出すなかで、この会議で議論する課題の一つになるということですね。

委員)

P2 成長力の確保で2050年代にGDPの成長率が1.5から2%とあるが、現実問題として人口減や生産性も停滞しているので、成長を前提にしたビジョンは厳しいのでは

ないか。経済関係の将来についてはどのように捉えているのか。

会長)

国策に関する質問で、答えにくいところもあるかと思いますが、答えられる範囲でお願いします。

統括)

国ではGDPの成長率を1.5から2%と掲げているが、町では具体的な経済成長率は定めていない。町の3分の1を占める新島企業の経営にも大きく左右され、人口や経済成長に直接つながらなくても町として必要な施策を考えていきたいと思っている。

町長)

国には国の戦略があると思うので、ここでは播磨町の総合戦略を作っていく。播磨町、またはこの近辺の経済活動で望まれることをまちづくりでどのように取り込んでいくか、今までになかったこの会議で聴いていきたい。地域の経済がどう動くか、商工業がどう活性化するか、播磨町としてできることを考えていきたい

会長)

法律の上でも、国とは役割分担して町の総合戦略を策定することになっています。

委員)

人口問題では交流人口を増やしていくことも考えなければならないと思うが、播磨町ではそのような場所がないのではないか。

町長)

来年、土山駅南側に商業施設がオープンする。1階には交流スペースを確保するので、そこで県や2市2町、他市町の方が交流してもらえたらと思っている。定住を考えたとき、近隣と経済圏や地域性が同じなら、市町の特徴が重要になってくる。播磨町は今年「選ばれる自治体」をテーマとして掲げ、町の魅力である住みやすさ・子育てのしやすさをPRし引き込みたいと思っている。そして交流人口を増やす中で、その方たちが定住人口になるように結び付けられるようなものを総合戦略の中に盛り込みたい。

会長)

今の答弁については、資料3の2にもあるので、そこでまた議論をしたいと思います。では、次に進みます。

(2) 播磨町人口ビジョン(骨子)について  
(事務局より説明)

【資料2】

会長)

ただいまのご説明について、ご意見ご質問等がございましたらお願いします。

委員)

周辺市との人口異動について、加古川市への転出者が多いことは記載されてあるが、転入についてはどのような傾向にあるのか。

理事)

転入も加古川市からが多く、加古川市との関係の強さがうかがわれる。次いで明石市、神戸市、高砂市となっている。

会長)

総評としては、転入・転出は拮抗している状態であるのですか。

理事)

平成24、25年は転入が多く上昇傾向にあり、26、27年は比較的転入・転出が拮抗し落ち着いてきている。

副会長)

新島にある製造業や産業の成長がここ最近芳しくない。播磨町での雇用も考えてもらいたい。また、新しい企業を誘致するため、最初の2、3年は固定資産税を減免するなど特典を考えてはどうか。

町長)

新島への企業誘致は、私たちも考えなければならない課題ではある。採用については新島企業の多くが本社採用をしており、採用枠が地元でない。雇用の仕方は企業にも考えてもらえたらと思うが、地元枠を国から企業に働きかけてもらいたいと要望している。それが叶えば、かなりの方が地方で就業して生活する人も出てくる。企業の誘致については、何らかの優遇措置も含めて検討しなければならないと思っている。

会長)

今のお話も、資料3の1にもかかわってきます。現状等を調べるということなのでお願いします。そのほかご意見等がなければ次に進みたいと思います。

### (3) 総合戦略(骨子)について

【資料3】

(事務局より説明)

会長)

補足すると、最初に説明した資料1「国の人口減少克服・成長力の確保」、4つのカテゴリに分けられた基本目標と照らし合わせて見てもらいたい。役割分担をして総合戦略を進めていくことになっているけれども、国と播磨町で対応した形になっています。法律では国の総合戦略を勘案して自治体用に計画を作り直すようになっていますので、少々ずれていても播磨町にふさわしい内容になっていけばいいのです。新島の関連産業をどうするかという話がでてきましたが、ここの1に含まれるという風にご理解ください。土山駅南の拠点づくり、交流スペース作りは2に含まれます。そのように考えていただければわかりやすいかと思います。それ以外にご質問ご意見がいろいろあると思いますのでお願いします。

委員)

2の定住に関して、実際に住み続けることと郷土愛は必ずしもつながらないのではないかと。定住する地域は仕事や交通の利便性、適切な住居など現実的な条件から考えると思う。

あえて「郷土愛」という言葉を入れている町の意図や思いを聞きたい。

町長)

これには、町内の子ども達が帰ってきたい、住み続けたいと思うという意味がある。播磨町の教諭に話を聞くと、教え子たちが数年後、保護者となって学校に顔を見せることが多いそうだ。播磨町に大学はないので都会に出る人も多いが、地元にいる間に教育や地域で郷土愛を身につければ、仕事や家庭を持つという人生設計のなかで町を思い出し、まちに帰ってくるのではという思いが込められている。

会長)

学校教育の関係者がいれば、もう少し詳しく説明できたかもしれません。

町長)

総合教育会議が今年開催され、町長も教育関係に意見できるようになった。義務教育の間、地域の人たちが子どもたちと一緒にいろんな体験をしてもらええる環境をつくることで、ふるさと意識を持ちながら成長してもらえたらと思っている。進学や就職で一度播磨町を離れた人が、もう一度住みたいという原体験を積み重ねていきたい。

会長)

通常、人口問題を取り上げる際は大学進学や就職が鍵となりますが、播磨町には大学がないということで、小中教育でどこまでできるかという考えから作られたものです。

委員)

そのような思いや実態など、前提があって話が見えてくるので、その過程を表現したほうがわかりやすいと思う。

会長)

今の状態ではやや説明不足であり、ご指摘は意義があると思います。

委員)

金融機関としては基本目標の「しごとの創生」にかかわると思うが、私どもは受け身の体制であることが多く、具体的には地域経済活性化に関してどのような提案を期待されているのか教えていただきたい。

町長)

起業者に対して、商工会は商工会館の2階にブースを設けたり、町も補助金等で支援している。しかし、町内で起業してもいいと考える一番のネックは資金面。規模の大小にかかわらず金融機関がスムーズに融資していただくと、きめ細かな支援になるのではないかと考えている。

委員)

今の町長の補足として、起業準備オフィスでは起業するまでの間の1年以内なら月額3千円で利用できる。今までになかった新しい事業化支援で、播磨町出身で定年退職された方、主婦の方が利用されている。多様な個性ある商店は地域の顔になると思う。商工会としても個人を立ち上げるサポートをやり始めたところである。

町長)

先日、農業をしたいという青年がいたが、農業委員会も後押しした事業で応援していくことになった。県の補助も必要だが町はどうすれば受け入れられるか、できることは支援したいと思っている。商業だけでなく、農業や漁業等いろんな分野で志を持った若者が出てくる可能性がある。資金面では私たちが持っているノウハウや知恵を金融機関にお借りしながら一緒に盛り上げていきたいと思っている。

委員)

資料2に戻って恐縮だが、目指すべき将来の方向の中での「ゆとりある住宅地」とあるが、こういった意味合いでの表現なのか。

統括)

ゆとりある住宅地ということで、数年前に区域を整備し住宅地が開発された。播磨町は面積が小さいので難しいかもしれないが、今後、業者で戸当たりの面積が広いものを開発してもらい、定住する人のベッドタウンになればいいと思っている。

町長)

過去に開発された地域においては、土地が狭く2世帯住宅が建設できないということも聞く。最近の開発では地区計画において広い敷地で建設している。将来的に2世代3世代で住むことも考えられる住宅開発を奨励するために「ゆとりある住宅地」としている。

委員)

浜幹線が開通し、周辺の宅地開発が進むのはいいことだと思うが、不動産の間取りが子供部屋は2人を想定した定型的なところが多い。新たな宅地開発は市街化区域の関係や地区計画の策定等、また不動産業者の協力も必要になるので簡単ではないが、人口の増加を凶るなら子供を産みやすい・育てやすい町であること、地価が手頃であること等、個性を打ち出すのも必要かと思う。

町長)

住宅に関しては、個人の財産なので町が関与するのは難しいが、政策では複数の子供を育てやすい環境ということで、多子軽減制度として幼稚園保育料は2人目半額、3人目無料、保育園の保育料は県の制度に上乘せしている。すでに子どもが1人いる家庭が2人目を望めるようになれば良い。そのような家庭が100あれば100人増える。子どもが何人いるかで将来人口が変わると思うので、住宅施策においてもそのようなことができればいいとは思っている。

委員)

播磨町はリサイクルや環境に熱心で、地域活動も活発、新島ではものづくりと、バランスの取れた町だと思う。これらを宣伝して播磨町に関心を持ってもらう必要があると思うが、広報戦略はどう考えているか。

町長)

町民が播磨町の事業をいかに知っていただけるかが大事で、それを誇りに思う住民を育てたいと思っている。情報が届いてないのは存在しないのと同じ。今年は播磨町の紹介ビデオを作成し、土山駅南の交流スペースでも映像を流したいと考えている。28年度予算

ではPR事業を予定している。町民でも播磨町の実態を知らない人、たとえば南側に住んでいる人は大中遺跡を知らなかったりするるので、今あるものをPRしていくことも大事だと考えている。

会長)

私の方でまとめさせていただくと資料3に関して6, 7点のやり取りがありました。

- ①基本目標2 土山駅南交流施設でどう活用するか
- ②基本目標1 新島の企業等をどう支援するか
- ③基本目標2 移住定住の促進で「郷土愛」の前文の書き出し部分が説明不足
- ④基本目標1 金融機関への期待として助成事業化、農業の支援について金融機関と構築できないかという話題
- ⑤基本目標4 ゆとりある住宅地として特徴を持たせた町づくり(この計画は31年までをベースにしたものなので長い目で見ることが必要)
- ⑥基本目標3 もう1人産める社会づくり
- ⑦広報宣伝

それぞれの立場で意見がありましたら、この会議後でもメール等で受け付けます。では次に進みます。

(4) アンケート調査について

【資料4】

(事務局より説明)

会長)

何かコメントや気になったところがありましたらお願いします。

委員)

若年者調査の対象が17歳とあるが、高校生ということでプライバシーの関係から保護者の了解などは必要ないのか。

統括)

記名は考えておらず、17歳の意識調査としてまとめるため、個人のプライバシーを侵す心配はないと考えている。

会長)

無記名なので特に問題ないということ。本日の議事は一通り終わりましたが、全体を通しての意見等はございませんでしょうか。

委員)

アクティブシニアを戦略の活用に考えていないか。活躍が期待されると思うが。

会長)

アクティブシニアとは。

委員)

元気な高齢者のこと。

会長)

地域活動のほか子育てのサポートなどいろいろ活躍されると思いますが、いかがでしょうか。枠組みの中には入ってなかったように思いますがお願いします。

理事)

資料2の目指すべき将来の方向性(案)の中には、元気な高齢者が地域で活躍できる部分を作りながら地域の活力・コミュニティの部分でもご協力をいただきながら地域の活力を図っていききたいということを記載している。

会長)

具体的なところまでではないが、案としては一応あるということですね。

委員)

町内の空き家を有効活用するとか、できるだけ減らしていくという考えはあるのか。

会長)

空き家の現状と方向性のご説明を願います。

町長)

空き家調査については、今年度予算化し現在調査中である。状況を見てから今後の対策を考えていきたい。

委員)

それを見てから、人を呼び込むようなことができるか等を決めるのか。

町長)

空き家の状況による。空き家の利用や古民家を含めた再生も考えられるが、まず現状を把握しなければ、どの程度活用できるかわからない。結果を見て今後の方向を決める。

会長)

大事な論点で地域創生でもよく言われる話です。その他いかがでしょうか。

委員)

資料2にある「優れた交通アクセス」とはコミュニティバスをイメージしていいのか。

町長)

播磨町を通る幹線道路と鉄道が充実しているということ。播磨町には旧浜国、浜幹線、明姫幹線、国道2号線が通り、東西交通も発達している。また山陽電鉄とJRの駅もあり、交通の利便性は高い。通勤にも便利で新島や稲美町への移動にも利用されている。

委員)

現状のままでも強みであるということですね。

町長)

現在、路線バスの延伸・増便で公共交通の充実を図っているが、それでも補えない部分は播磨町地域公共交通会議において、町でも新たな交通システム、コミュニティバスのよ



うなものを来年度以降に実施したいと思っている。

委員)

資料3に「しごとを創る」とあるが、仕事をするには体が資本である。町の対策ではないかもしれないが、大企業は別として中小企業や法律上義務がない企業への健康・衛生面の支援も含まれていると考えてよいのか。

理事)

働きやすいまちの環境整備という中で、勤労福祉の充実は事業の中には出てくると思う。

会長)

指摘等たくさん意見が主に資料3についてありましたが、それを直接反映させる必要はなく町で練って施策を作っていただきたい。

私からの意見として、出産や子育て等に充実した取り込みが行われているので、それらをもっとPRしたほうが良いと思います。KPIも対外的に打ち出すことが重要であると指摘します。また、資料3で総合計画が最上位に位置づけられていますが、総合戦略があまり独立した体系にすると整理が難しい。総合戦略骨子との上手な説明をお願いしたい。

7 閉会

以上